参考資料

参考資料

参考資料１：CEFR　共通参照レベル：自己評価表

		A１	A２	B１
理解すること	聞くこと	はっきりとゆっくりと話してもらえれば、自分、家族、すぐ周りの具体的なものに関する聞き慣れた語やごく基本的な表現を聞き取れる。	（ごく基本的な個人や家族の情報、買い物、近所、仕事などの）直接自分につながりのある領域で最も頻繁に使われる語彙や表現を理解することができる。 短い、はっきりとした簡単なメッセージやアナウンスの要点を聞き取れる。	仕事、学校、娯楽で普段出合うような身近な話題について、明瞭で標準的な話し方の会話なら要点を理解することができる。 話し方が比較的ゆっくり、はっきりとしているなら、時事問題や、個人的もしくは仕事上の話題についても、ラジオやテレビ番組の要点を理解することができる。
	読むこと	例えば、掲示やポスター、カタログの中のよく知っている名前、単語、単純な文を理解できる。	ごく短い簡単なテクストなら理解できる。 広告や内容紹介のパンフレット、メニュー、予定表のようなものの中から日常の単純な具体的に予測がつく情報を取り出せる。 簡単で短い個人的な手紙は理解できる。	非常によく使われる日常言語や、自分の仕事関連の言葉で書かれたテクストなら理解できる。 起こったこと、感情、希望が表現されている私信を理解できる。
話すこと	やり取り	相手がゆっくり話し、繰り返したり、言い換えたりしてくれて、また自分が言いたいことを表現するのに助け船を出してくれるなら、簡単なやり取りをすることができる。 直接必要なことやごく身近な話題についての簡単な質問なら、聞いたり答えたりできる。	単純な日常の仕事の中で、情報の直接のやり取りが必要ならば、身近な話題や活動について話し合いができる。 通常は会話を続けていくだけの理解力はないのだが、短い社交的なやり取りをすることはできる。	当該言語圏の旅行中に最も起こりやすいたいていの状況に対処することができる。 例えば、家族や趣味、仕事、旅行、最近の出来事など、日常生活に直接関係のあることや個人的な関心事について、準備なしで会話に入ることができる。
	表現	どこに住んでいるか、また、知っている人たちについて、簡単な語句や文を使って表現できる。	家族、周囲の人々、居住条件、学歴、職歴を簡単な言葉で一連の語句や文を使って説明できる。	簡単な方法で語句をつないで、自分の 経験や 出来事、夢や 希望、野心を語ることができる。 意見や計画に対する理由や説明を簡潔に示すことができる。 物語を語ったり、本や映画のあらすじを話し、またそれに対する感想・考えを表現できる。
書くこと	書くこと	新年の挨拶など短い簡単な葉書を書くことができる。例えばホテルの宿帳に名前、国籍や住所といった個人のデータを書き込むことができる。	直接必要のある領域での事柄なら簡単に短いメモやメッセージを書くことができる。 短い個人的な手紙なら書くことができる：例えば礼状など。	身近で個人的に関心のある話題について、つながりのあるテクストを書くことができる。私信で経験や印象を書くことができる。

B２	C１	C２
長い会話や講義を理解することができる。また、もし話題がある程度身近な範囲であれば、議論の流れが複雑であっても理解できる。 たいていのテレビのニュースや時事問題の番組も分かる。 標準語の映画なら大多数は理解できる。	たとえ構成がはっきりしなくて、関係性が暗示されているにすぎず、明示的でない場合でも、長い話が理解できる。 特別の努力なしにテレビ番組や映画を理解できる。	生であれ、放送されたものであれ、母語話者の速いスピードで話されても、その話し方の癖に慣れる時間の余裕があれば、どんな種類の話し言葉も難無く理解できる。
筆者の姿勢や視点が出ている現代の問題についての記事や報告が読める。 現代文学の散文は読める。	長い複雑な事実に基づくテクストや文学テクストを、文体の違いを認識しながら理解できる。 自分の関連外の分野での専門的記事も長い技術的説明書も理解できる。	抽象的で、構造的にも言語的にも複雑な、たとえばマニュアルや専門的記事、文学作品のテクストなど、事実上あらゆる形式で書かれた言葉を容易に読むことができる。
流暢に自然に会話をすることができ、母語話者と普通にやり取りができる。 身近なコンテクストの議論に積極的に参加し、自分の意見を説明し、弁明できる。	言葉をことさら探さずに流暢に自然に自己表現ができる。 社会上、仕事上の目的に合った言葉遣いが、意のままに効果的にできる。 自分の考えや意見を正確に表現でき、自分の発言を上手に他の話し手の発言にあわせることができる。	慣用表現、口語体表現をよく知っていて、いかなる会話や議論でも努力しないで加わることができる。 自分を流暢に表現し、詳細に細かい意味のニュアンスを伝えることができる。 表現上の困難に出合っても、周りの人がそれにほとんど気がつかないほどに修正し、うまく繕うことができる。
自分の興味関心のある分野に関連する限り、幅広い話題について、明瞭で詳細な説明をすることができる。 時事問題について、いろいろな可能性の長所、短所を示して自己の見方を説明できる。	複雑な話題を、派生的話題にも立ち入って、詳しく論ずることができ、一定の観点を展開しながら、適切な結論でまとめ上げることができる。	状況にあった文体で、はっきりとすらすらと流暢に記述や論述ができる。効果的な論理構成によって聞き手に重要点を把握させ、記憶にとどめさせることができる。
興味関心のある分野内なら、幅広くいろいろな話題について、明瞭で詳細な説明文を書くことができる。 エッセイやレポートで情報を伝え、一定の視点に対する支持や反対の理由を書くことができる。 手紙の中で、事件や体験について自分にとっての意義を中心に書くことができる。	適当な長さでいくつかの視点を示して、明瞭な構成で自己表現ができる。 自分が重要だと思う点を強調しながら、手紙やエッセイ、レポートで複雑な主題を扱うことができる。 読者を念頭に置いて適切な文体を選択できる。	明瞭な、流暢な文章を適切な文体で書くことができる。 効果的な論理構造で事情を説明し、その重要点を読み手に気づかせ、記憶にとどめさせるように、複雑な内容の手紙、レポート、記事を書くことができる。 仕事や文学作品の概要や評を書くことができる。

参考資料

Council of Europe (2001) *Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment*. Cambridge: Cambridge University Press.

Council of Europe (2004)『外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠』初版第1刷、吉島茂、大橋理枝（訳、編）朝日出版社（第二版作成にあたり参考資料中の漢字表記を一部修正した）

参考資料

参考資料２：　言語能力と言語活動のカテゴリー一覧

分類			No.	カテゴリー	カテゴリーの説明
コミュニケーション言語活動	活動	受容（理解する）	1	聞くこと全般	聞くことに関する全般的な記述。 [CEFR: overall listening comprehension]
			2	母語話者同士の会話を聞く	母語話者同士の会話を理解する。 [CEFR: understanding conversation between native speakers]
			3	講演やプレゼンテーションを聞く	講演やプレゼンテーションなどを、その場にいる聴衆として聞く。 [CEFR: listening as a member of a live audience]
			4	指示やアナウンスを聞く	駅の構内放送など公共のアナウンスや、直接自分に向けられた指示を聞く。 [CEFR: listening to announcements and instructions]
			5	音声メディアを聞く	ラジオ番組などの音声メディアや録音された音声を聞く。 [CEFR: listening to audio media and recordings]
			6	読むこと全般	読むことに関する全般的な記述。 [CEFR: overall reading comprehension]
			7	手紙やメールを読む	手紙、ファックス、メールなどの通信文を読む。 [CEFR: reading correspondence]
			8	必要な情報を探し出す	掲示、広告、資料などから、必要となる特定の情報を探し出す。 [CEFR: reading for orientation]
			9	情報や要点を読み取る	新聞記事や専門的な資料の概要や要点を読み取る。 [CEFR: reading for information & argument]
			10	説明を読む	取扱説明書や規約など、指示や説明を読む。 [CEFR: reading instructions]
			11	テレビや映画を見る	テレビ番組や映画など、映像を見ながら音声を聞く。 [CEFR: watching TV and film]
		産出（表現する）	12	話すこと全般	話すことに関する全般的な記述。 [CEFR: overall oral production]
			13	経験や物語を語る	自分が経験したこと、知っていること、物語などを語る。 [CEFR: sustained monologue: describing experience]
			14	論述する	ディベートなどで自分の意見、理由や根拠を述べる。 [CEFR: sustained monologue: putting a case (e.g. in a debate)]
			15	公共アナウンスをする	公共の場でアナウンスをする。　[CEFR: public announcements]
			16	講演やプレゼンテーションをする	講演、スピーチ、プレゼンテーションなど、聴衆に向かって話をする。 [CEFR: addressing audiences]
			17	書くこと全般	書くことに関する全般的な記述。 [CEFR: overall written production]
			18	作文を書く	自分が経験したこと、知っていること、物語などを書く。 [CEFR: creative writing]
			19	レポートや記事を書く	情報をまとめて、レポート、報告書、記事などを書く。 [CEFR: reports and essays]
		相互行為（やりとりする）	20	口頭でのやりとり全般	口頭でのやりとりに関する全般的な記述。 [CEFR: overall spoken interaction]
			21	母語話者とやりとりをする	母語話者を交えたやりとりをする。 [CEFR: understanding a native speaker interlocutor]
			22	社交的なやりとりをする	挨拶、社交辞令、世間話など、社会的な関係を維持するためのやりとりをする。 [CEFR: conversation]
			23	インフォーマルな場面でやりとりをする	友人・知人とのインフォーマルな場面で、相談や意見交換をする。 [CEFR: informal discussion (with friends)]
			24	フォーマルな場面で議論する	会議やディベートなどフォーマルな場面で議論をする。 [CEFR: formal discussion and meetings]
			25	共同作業中にやりとりをする	イベントの企画や引越など、人との共同作業中にやりとりをする。 [CEFR: goal-oriented co-operation (e.g. repairing a car, discussing a document, organising an event)]
			26	店や公共機関でやりとりをする	店や駅、役所、銀行などの公共機関で、商品やサービスを得るためにやりとりをする。 [CEFR: transactions to obtain goods and services]
			27	情報交換する	何かのために必要な、実質的な情報を交換する。 [CEFR: information exchange]

分類				No.	カテゴリー	カテゴリーの説明
				28	インタビューする／受ける	インタビューをしたり、受けたりする。病院での診察も含まれる。 [CEFR: interviewing and being interviewed]
				29	文書でのやりとり全般	文書を使ったやりとりに関する全般的な記述。 [CEFR: overall written interaction]
				30	手紙やメールのやりとりをする	手紙、ファックス、メールなどでやりとりをする。 [CEFR: correspondence]
				31	申請書類や伝言を書く	申請書類やアンケートなど、提示された書式に応じて記入したり、伝言メモを書いたりする。 [CEFR: notes, messages & forms]
	方略	受容		32	意図を推測する	文脈から手がかりを発見し、意味や意図を推測する。 [CEFR: identifying cues and inferring (spoken & written)]
		産出		33	表現方法を考える	伝えたいことをどのように表現するか考える。 [CEFR: planning]
				34	（表現できないことを）他の方法で補う	適切に言い表せないことを、他の表現で言い換えたり、ジェスチャーで補ったりする。 [CEFR: compensating]
				35	自分の発話をモニターする	自分の発話をモニターし、誤りを修正したり、言い直したりする。 [CEFR: monitoring and repair]
		やりとり		36	発言権を取る（ターン・テイキング）	適切に発言権（ターン）を取って、会話を始め、続け、終わらせる。 [CEFR: taking the floor (turn-taking)]
				37	議論の展開に協力する	相手の話に自分の話を関連づけたり、これまでの流れを確認したりして、会話や議論の展開に協力する。 [CEFR: co-operating]
				38	説明を求める	理解できなかったことを確認したり、より詳しい説明を求めたりする。 [CEFR: asking for clarification]
	テクスト			39	メモやノートを取る	人の話を聞いてメモを取ったり、講義やセミナーなどでノートを取ったりする。 [CEFR: note-taking (lectures, seminars, etc.)]
				40	要約したり書き写したりする	テクストの内容を要約したり、重要な点を書き写したりする。 [CEFR: processing text]
コミュニケーション言語能力	能力	言語構造的能力		41	使える言語の範囲	語彙、文法、音声、識字など使用可能な範囲について。 [CEFR: general linguistic range]
				42	使用語彙領域	語彙知識の広さ。 [CEFR: vocabulary range]
				43	語彙の使いこなし	語彙知識を使いこなす能力。 [CEFR: vocabulary control]
				44	文法的正確さ	文法的な正確さ。 [CEFR: grammatical accuracy]
				45	音素の把握	発音やイントネーションの知識とそれを使いこなす技能。 [CEFR: phonological control]
				46	正書法の把握	つづり、書記法、句読点の使い方などの知識とそれを使いこなす技能。 [CEFR: orthographic control]
		社会言語能力		47	社会言語的な適切さ	社会言語的な適切さ。 [CEFR: sociolinguistic appropriateness]
		語用能力	ディスコース能力	48	柔軟性（ディスコース能力）	場面や聞き手に応じて内容、話し方を調整する能力。 [CEFR: flexibility]
				49	発言権（ディスコース能力）	発言を始め、続け、終わらせる能力。 [CEFR: turn-taking]
				50	話題の展開（ディスコース能力）	論点を並べたり、展開したりする能力。 [CEFR: thematic development]
				51	一貫性と結束性（ディスコース能力）	接続表現や結合表現を使ってテクストを構成する能力。 [CEFR: coherence and cohesion]
			機能的能力	52	話しことばの流暢さ（機能的能力）	はっきりと発音し、会話を続けたり、行き詰った時に対処したりする能力。 [CEFR: spoken fluency]
				53	叙述の正確さ（機能的能力）	明確に考えや事柄を言語化する能力。 [CEFR: propositional precision]

参考資料　Council of Europe (2001) *Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment*. Cambridge: Cambridge University Press.

参考資料３-1　Can-do のレベル別特徴一覧【受容（理解する）】

	条件	＋ 話題・場面	＋ 対象	＋ 行動
C2	• 母語話者にかなり速いスピードで話されても	• 幅広い分野にわたって	• 生であれ、放送であれ、あらゆる種類の話しことば • かなり程度の高い口頭表現や方言的な慣用表現、馴染みの薄い専門用語を利用した専門の講義やプレゼンテーション • あらゆる形式の書きことば • 長い複雑なテクスト	• 難なく理解できる • 実質的に理解して批判的に解釈できる
C1	• 耳慣れない話し方の場合には、ときどき細部を確認する必要があるが • いくつかの非標準的な表現があっても • 難しい箇所を読み返すことができれば • 辞書をときどき使えば	• 自分の専門分野に関連していなくても • 社会、専門、学問の分野 • 自分の専門外の抽象的で複雑な話題	• 長い発話 • 録音され、放送された広範囲な音声素材 • 相当数の俗語や慣用表現のある映画 • ある程度長い、複雑なテクスト • 幅広い慣用表現や口語表現のテクスト	• 容易に理解できる • 中身を詳細に理解できる
B2	• 専門用語の意味を確認するために辞書を使うことができれば(専門外であっても)(B2.2) • 話の方向性が明示的な標識で示されていれば（B2.1） • 少し努力すれば（B2.1） • 標準語で普通のスピードで話されていれば • 難しい箇所を読み返すことができれば	• 身近な話題でなくとも(B2.2) • 個人間、社会、専門、学問の世界で普段出合う話題(B2.2) • 幅広い専門的な話題 • 自分の興味のある分野 • 具体的／抽象的な話題	• 母語話者同士の活気に富んだ会話（B2.2） • 非常に専門的な資料（B2.2） • 自分の周りで話されていること（B2.1） • 内容的にも言語的にも複雑な話 • 学問的／専門的なプレゼンテーション • たいていのテレビのニュースや時事問題の番組 • ドキュメンタリー、生のインタビュー、トークショー、演劇、大部分の映画 • 長い複雑なテクスト • 情報や記事、レポート	• 母語話者の会話についていくことができる（B2.2） • 情報、考え、意見を読み取ることができる（B2.2） • 流れを理解できる（B2.1） • 要点を理解できる • 独力で読み解くことができる • 重要事項を見定めることができる • 内容やその重要度をすぐに把握できる
B1	• 聞き慣れた話し方で、発音もはっきりとしていれば(B1.2) • 話し方がゆっくりとはっきりとしていれば（B1.1） • 話が標準的なことばで、発音もはっきりとしていれば	• 毎日や普段の仕事上の話題（B1.2） • 身近な話題（B1.1） • 仕事、学校、余暇などの場面で普段出合う、ごく身近な事柄（B1.1） • 自分の専門分野や興味のある話題	• 簡潔で明確な構成のプレゼンテーション、講義、話(B1.2) • 多くのテレビ番組（インタビュー、短い講演、ニュースレポート）(B1.2) • 簡単な短い話（B1.1） • ラジオの短いニュースや、比較的簡単な内容の録音された素材（B1.1） • かなりの映画、テレビ番組（B1.1） • 日常の資料（手紙、パンフレット、短い公文書）(B1.1) • 簡単な新聞記事（B1.1） • 簡単な専門的情報 • 詳細な指示	• 内容をおおかた理解できる（B1.2） • 要点を理解できる（B1.1） • 重要点を取り出すことができる（B1.1） • 理解できる • 出来事、感情、希望の表現を理解することができる

	条件	+	話題・場面	+	対象	+	行動
A2	• 簡単なことばで表現されていれば（A2.2） • 映像が実況のほとんどを説明してくれるならば（A2.2） • ゆっくりとはっきりと話されれば		• 具体的で身近な事柄（A2.2） • 最も直接的な優先事項の領域（ごく基本的な個人や家族の情報、買い物、その地域の地理、雇用）（A2.1） • 予測可能な日常の事柄		• 日常の手紙やファックス（照会、注文、確認）（A2.2） • 短い個人の手紙（A2.1） • 短い、はっきりとした、簡単なメッセージやアナウンス • 日常の看板や掲示（道路、レストラン、鉄道の駅などの看板、指示、危険警告などの掲示） • 日常の簡単な資料（広告、メニュー、時刻表） • 日常の簡単なテクスト（手紙、パンフレット、新聞の短い事件記事） • テレビのニュース番組		• 具体的な必要性を満たすことが可能な程度に理解できる（A2.2） • 内容を大まかに理解できる（A2.1） • 話題が理解できる • 要点が理解できる • 必要な情報を取り出すことができる
A1	• 意味が取れるように長い区切りをおいて、非常にゆっくりと注意深く発音してもらえれば • 当人に向かって、丁寧にゆっくりと話されれば • 必要であれば読み直したりしながら • 視覚的な補助があれば		• 日常のよくある状況で		• 短い簡単な説明、指示、情報 • 非常に短い簡単なテクスト • 簡単な掲示の中にある身近な名前や語、基本的な表現		• 一文一節ずつ理解することができる • 概要を把握することができる

＊（括弧）内のレベルは、A2、B1、B2をさらに2つの詳細レベルに分けたものです。

参考資料　Council of Europe (2001) *Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment*. Cambridge: Cambridge University Press.

Council of Europe (2004)『外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠』初版第1刷、吉島茂、大橋理枝（訳、編）朝日出版社

Council of Europe (2008)『外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠』初版第2刷、吉島茂、大橋理枝（訳、編）朝日出版社

参考資料３-2　Can-do のレベル別特徴一覧【産出（表現する）】

	条件	話題・場面	対象	行動
C2	• 話題について知識のない聴衆に対しても		• 記憶に残るような経験談 • 論理的な構造を持った、流れのよいスピーチ • 複雑なテクスト • 明瞭で流れるような、複雑なレポート、記事、エッセイ • 実情説明、提案、文学作品の批評文	• 明瞭で滞りなく、詳しく話す／書くことができる • 読者に重点がわかるように、適切で効果的に論理を構成することができる • 聴衆の必要性に合わせて柔軟に話を構造化できる • 自信を持ってはっきりと発表できる • そのジャンルに適切な文体で書き、読み手を完全に引き込むことができる
C1		• 複雑な話題	• 明瞭かつ詳細な記述やプレゼンテーション • 明瞭な、きちんとした構造を持ったプレゼンテーション、テクスト • 的確な構成と展開を持つ描写文や創造的なテクスト	• 論点を展開し、立証できる • 補助事項、理由、関連事例を詳しく説明できる • 読者として想定した相手にふさわしい自然な文体で書くことができる • 明瞭かつ詳細に述べることができる • 下位テーマをまとめ、要点を展開して、適切な結論で終わらせることができる
B2		• 自分の関心のある分野に関連した広範囲な話題 • 一般的な話題のほとんど • 自分の関心がある専門分野の多様な話題	• はっきりとした、体系的に展開したプレゼンテーション（B2.2） • 事前に用意されたプレゼンテーション（B2.1） • 映画、本、演劇の批評（B2.1） • 明瞭で詳しいテクスト • エッセイやレポート	• 適切に要点を強調し、補足事項を詳しく取り上げて、整然と論拠を展開できる（B2.2） • 非常に流暢に、楽に表現できる（B2.2） • 当該ジャンルの書式習慣に従って詳細に記述することができる（B2.2） • 根拠を提示しながら、利点と不利な点、賛成や反対の理由を挙げて、説明できる（B2.1） • いろいろなところから集めた情報や議論をまとめることができる（B2.1） • 明確で詳しく述べることができる • いろいろな情報や議論を評価したうえで書くことができる

	条件	+	話題・場面	+	対象	+	行動
B1	• 練習しておけば • アクセントとイントネーションにはかなり耳慣れない部分もあるが		• 自分の専門範囲の日常的／非日常的な事柄（B1.2） • 日常的な事柄（B1.1） • 意見、計画、行動（B1.1） • 自分の関心のあるさまざまな話題 • 現実や想像上の出来事、経験 • 事故などの予測不能の出来事 • 夢や希望、野心		• 短い、簡単なエッセイ（B1.2） • 極めて短い報告文（B1.1） • ある程度の長さの、簡単な記述やプレゼンテーション • 本や映画の筋 • 単純につなぎあわせたテクスト • 物語		• 集めた事実情報をもとに総括し、報告できる（B1.2） • ある程度の自信を持って自分の意見を提示できる（B1.2） • 事実を述べ、理由を説明することができる（B1.1） • 標準的な常用形式に沿って書くことができる（B1.1） • 自分の感情や反応を描写することができる • 自分の考えを述べることができる • 夢、希望、野心を述べることができる • 順序だてて詳細に述べることができる • 比較的流暢に事柄を直線的に並べて述べることができる
A2	• 聞き手が集中して聞いてくれれば、練習したうえで		• 自分の毎日の生活に直接関連のある話題（A2.2） • 計画、準備、習慣、日々の仕事、過去の活動や個人の経験（A2.2） • 家族、住居環境、学歴、現在やごく最近までしていた仕事（A2.1） • 人物や　生活、職場環境、日課、好き嫌いなど • 予測可能で身近な内容の事柄		• 短いプレゼンテーション（A2.2） • 短い基本的なプレゼンテーション（A2.1） • 単純な記述 • 短いアナウンス		• 要点を短く述べることができる（A2.2） • 事柄を列挙して、簡単に述べることができる（A2.2） • 好きか嫌いかを述べることができる（A2.2） • 文を連ねて書くことができる（A2.2） • 簡単なことばで述べることができる（A2.1） • 簡単な句や文を連ねて書くことができる（A2.1） • 簡単な字句や文を並べて話すことができる • 「そして」「しかし」「なぜなら」などの簡単な接続詞でつなげて書くことができる
A1			• 人物や場所について • 自分や想像上の人々について（どこに住んでいるか、何をしているか）		• 非常に短い、準備して練習した表現（話し手の紹介や乾杯の発声） • 簡単な表現、句や文		• 読み上げることができる • 単純な字句を並べて、述べることができる • 単独に書くことができる

＊（括弧）内のレベルは、A2、B1、B2をさらに2つの詳細レベルに分けたものです。

参考資料　Council of Europe (2001) *Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment*. Cambridge: Cambridge University Press.

Council of Europe (2004)『外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠』初版第1刷、吉島茂、大橋理枝（訳、編）朝日出版社

Council of Europe (2008)『外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠』初版第2刷、吉島茂、大橋理枝（訳、編）朝日出版社

参考資料３-3　Can-do のレベル別特徴一覧【やりとり（相互行為)】

	条件	＋	話題・場面	＋	対象	＋	行動
C2	• 母語話者と比べても引けをとらず • 標準的でない話し方や言い方に慣れれば		• 社会や個人生活全般にわたって • 自分の専門分野を超えた専門家の抽象的な複雑な話題		• 慣用的な表現や口語表現 • 複雑な議論 • 明確で説得力のある議論		• (慣用的表現や口語表現を)使いこなすことができる • 的確に修飾を加え、細かいニュアンスまで伝えることができる • 堂々と、非常に流暢に話や対話を組み立てることができる • 言語上の制限もなく、ゆとりをもって、適切に、自由に会話ができる • 自己主張できる
C1	• 助け船を出さなくても • 馴染みのない話し方の場合にときどき詳細を確認する必要はあるが		• 抽象的かつ複雑で身近でない話題 • 自分の専門分野外の話題		• 専門家による抽象的な複雑な話 • インタビュー • ディベートでの第三者間の複雑な対話 • 個人的な通信		• はっきりと正確に表現することができる • らくらくと流暢に、自然に言いたいことを表現できる • (インタビューに）完全に参加することができる • (ディベートに）容易についていくことができる • なめらかに議論点を発展させることができる • 感情表現、間接的な示唆、冗談などを交えて、柔軟に効果的に対応することができる
B2	• 話し方を全く変えない複数の母語話者との議論に加わるのは難しいかもしれないが、多少の努力をすれば（B2.1） • 騒音のある環境でも		• 一般的、学術的、職業上、余暇に関する幅広い話題（B2.2） • 生活上のさまざまなトラブルに対して（B2.2） • 自分の職業上の役割に関するあらゆる事柄（B2.2） • たいていの話題 • 自分の専門分野に関連した事柄		• 複雑な情報や助言（B2.2） • 母語話者との活発な議論（B2.2） • インタビュー（B2.2） • 長い会話		• 議論の複雑な道筋を理解して、自信を持って反応できる（B2.2） • うまく交渉の話し合いができる（B2.2） • (インタビューを）なめらかに効果的に行うことができる（B2.2） • 自分の考えや意見をはっきりと説明し、主張できる(B2.1) • 多くの情報源からの情報と論拠を統合して報告できる（B2.1） • 代替案を評価すること、仮説を立て、また他の仮説に対応することができる（B2.1） • (会話に）積極的に参加できる • 論点や問題の概略をはっきりと述べることができる • 効果的に書いて表現でき、他の人の書いたものにも関連づけることができる

	条件	+	話題・場面	+	対象	+	行動
B1	• 時には言いたいことが言えないこともあるが • ディベートに参加するのは難しいが • 時にはくり返しを求めることもあるが • 相手が標準的な言葉遣いではっきりと発音してくれれば • 話が自分に向けられていれば		• 一般的な話題（B1.2） • 音楽や映画のような抽象的、文化的話題（B1.2） • 興味のある話題（B1.1） • 身近で個人的関心のある事柄（B1.1） • 日常生活に関連する話題（家族、趣味、仕事、旅行）(B1.1) • 自分の専門分野に関する話題 • 身近な話題 • 具体的／抽象的な話題 • あまり日常的では起きない状況（気に入らなかった品を返品するなど） • 旅行中に起きそうなこと		• 具体的な情報（B1.2） • 友人との非公式の議論(B1.1) • 簡単で事実に基づく情報（B1.1） • 会話や議論 • 個人的な手紙 • 情報や意見		• 情報を交換、チェックし、確認できる（B1.2） • 代案を比較し、対照できる（B1.2） • 他人の見方に短いコメントをすることができる（B1.2） • 個人的な意見を表明したり、情報を交換したりできる(B1.1) • 信念、意見、賛成、反対を丁寧に表現できる（B1.1） • 理由をあげて説明することができる（B1.1） • （会話に）参加し、続けることができる • 驚き、悲しみなどの感情を表現し、また相手の感情に反応することができる • 自分が重要だと思う点を相手に理解させることができる • 苦情を言うことができる • （旅行中に起こるたいていの状況に）対処することができる
A2	• 必要がある場合に相手が助けてくれれば、(A2.2) • 議論がゆっくりとはっきりとなされれば（A2.2） • はっきり、ゆっくりと、自分に直接向けられた発話ならば（A2.1） • 必要な場合に鍵となるポイントを繰り返してもらえるならば（A2.1） • 地図や図を参照しながら（A2.1） • ときどきくり返しや言いかえを求めることが許されるのであれば		• 自分の周りで議論されている話題（A2.2） • 旅行、宿泊、食事、買い物のような毎日の生活での普通の状況（A2.2） • 日常の課題に関して(A2.1) • 仕事中や自由時間に関わる身近な毎日の事柄（A2.1） • 直接必要なこと • 予測可能な日常の状況で • 身近な話題 • 興味のある話題		• 短い会話（A2.2） • 簡単な説明や指示（A2.2） • 考えや情報（A2.2） • 簡単な情報（A2.1） • 非常に短い社交的なやりとり（A2.1） • 短い、簡単なメモや伝言 • ごく簡単な個人的な手紙		• （考えや情報を）交換し、質問に答えることができる（A2.2） • 会話に参加できる（A2.2） • 他の人の意見に賛成や反対ができる（A2.2） • 会う約束をすることができる（A2.1） • 好き嫌いを言うことができる（A2.1） • 日常品やサービスを求めたり、提供したりできる(A2.1) • 食事を注文することができる（A2.1） • 行き方を聞いたり、教えたりすることができる。切符を買うことができる（A2.1） • （メモ、伝言、手紙を）書くことができる
A1	• こちらの事情を理解してくれるような話し相手から、はっきりとゆっくりと、繰り返しを交えながら、直接自分に話が向けられれば		• 直接必要なこと • ごく身近な話題 • 自分自身や他人に関して（住まい、知人、所有物など）		• 具体的で単純な必要性を満たすための日常の表現 • 短い簡単な質問、説明、指示 • 短い簡単なはがき		• 簡単な方法でやりとりができる • 聞いたり答えたりすることができる • （短い簡単なはがきを）書くことができる

＊（括弧）内のレベルは、A2、B1、B2をさらに2つの詳細レベルに分けたものです。

参考資料　Council of Europe (2001) *Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment*. Cambridge: Cambridge University Press.

Council of Europe (2004)『外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠』初版第1刷、吉島茂、大橋理枝（訳、編）朝日出版社

Council of Europe (2008)『外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠』初版第2刷、吉島茂、大橋理枝（訳、編）朝日出版社

参考資料

参考資料 4　能力 Can-do 一覧

レベル		A1	A2		B1		B2		C1	C2
			A2.1	A2.2	B1.1	B1.2	B2.1	B2.2		
言語構造的能力	使える言語の範囲	非常に 基本的な 範囲で、自分自身に関することや、具体的な要求を満たすための単純な表現を知っている。	身辺状況、毎日繰り返して行われること、必要な事物、要求、情報の請求など、具体的な欲求を満たすために必要な、簡潔な日常的表現が作れる。	たいていの場合、言いたいことを内容的に妥協・制限したり、言葉を探したりする必要があるが、予測可能な日常的な状況に本人が対応するために必要な、基本的な言語のレパートリーを持っている。	何とか生活できるだけの言語能力は持っている。語彙的な幅の狭さのために発言内容に繰り返しが生じたり、なかなか内容を言語化できなかったりすることもあるが、多少詰まったり回りくどかったりはしても、家族や趣味や、興味のあること、仕事、旅行、そして時事問題などについて、述べることができるだけの語彙を持っている。	予想外の状況を描写できるだけの充分な言語の幅を持っており、ある程度の正確さで考えや問題の主要点を説明することができ、抽象的な内容や、音楽や映画といった文化的な内容に関しても考えを述べることができる。	言葉を探していることをそれほど感じさせずに、明確な描写や、自分の視点の表明、議論の組み立てが充分に可能なだけの言語の幅を持っており、複雑な文構造で使えるものもある。	自分自身が言いたいことを明確に述べることができ、その内容を制限している感じを与えることはそれほどない。	自分が言いたいことを明確に言語化するために、幅広い使用可能な言語の範囲から適切な表現を 選ぶ こ と が できる、その内容を制限する必要がほとんどない。	正確に自分の考えを言語化したり、特定の点を強調したり、区別したり、あいまいさを除いたりするために、包括的で確実な、非常に幅広く習熟した言語の範囲を利用することができる。発言内容を制限する必要は全く感じられない。
			基本的な構文を使うことができ、いくつかの単語や覚えた言い回しを使って、自分自身や他人について、職業、特定の場所、持ち物などに関してコミュニケーションできる。							
			覚えた短い言い回しや、限られたレパートリーを駆使して、生活していく上で予測可能な状況に対処できる。しかし予想外の状況では、コミュニケーションが成り立たなかったり、あるいは誤解を生むことが多い。							

	レベル	A1	A2		B1		B2		C1	C2
			A2.1	A2.2	B1.1	B1.2	B2.1	B2.2		
言語構造的能力	使用語彙領域（語彙能力）	特定の具体的な状況に関して、基本的な単語や言い回しのレパートリーを持っている。ただしそれらの間の繋がりはない。	基本的なコミュニケーションの要求を満たすことができるだけの語彙を持っている。	馴染みのある状況や話題に関して、日常的な生活上の交渉・取引を行うのに充分な語彙を持っている。	家族、趣味や関心、仕事、旅行、時事問題など、本人の日常生活に関わる大部分の話題について、多少間接的な表現を使ってでも、自分の述べたいことを述べられるだけの語彙を持っている。		本人の専門分野や大部分の一般的な話題に関して、幅広い語彙を持っている。語彙に不足があるために、時々詰まったり、間接的な表現をすることもあるが、頻繁な繰り返しを避けて、言い方を変えることができる。		広い語彙レパートリーを使いこなせるし、言い換えで語彙の不足を埋めることができる。言葉を探したり、回避方略の使用がはっきりと分かることはない。定型表現や口語表現の使い方も上手である。	定型表現や口語表現も含め、非常に幅広い語彙のレパートリーを使うことができる。コノテーションに対する意識もある。
			生活上の単純な要求に対応できるだけの語彙を持っている。							
	語彙の使いこなし（語彙能力）		具体的な日々の要求に関する狭いレパートリーの語を使うことができる。		複雑な考えや、非日常的な話題や状況に関して何かを述べようとすると、大きな誤りをすることがあるが、初歩的な語彙は使いこなせる。		語彙的な正確さは一般的に高い。多少の混乱や間違った単語の選択もコミュニケーションを邪魔しない範囲である。		時には些細な言い間違いがあるが、大きな語彙上の誤りはない。	一貫して正しく、適切に語彙が使用できる。
	文法的正確さ（文法能力）	学習済みのレパートリーの中から、限られた、いくつかの単純な文法構造や構文を使うことはできる。	いくつかの単純な文法構造を正しく使うことができるが、依然として決まって犯す基本的な間違いがある―例えば、時制を混同したり、性・数・格などの一致を忘れたりする傾向がある。しかし、本人が何を言おうとしているのかはたいていの場合明らかである。		比較的予測可能な状況で、頻繁に使われる「繰り返し」やパターンのレパートリーを、割合正確に使うことができる。	馴染みのある状況では、割合正確にコミュニケーションを行うことができる。多くの場合高いレベルでの駆使能力があるが、母語の影響が明らかである。誤りも見られるが、本人が述べようとしていることは明らかに分かる。	比較的高い文法駆使力が見られる。誤解につながるような間違いは犯さない。	高い文法駆使力がある。時には「言い間違い」や、文構造での偶然起こした誤りや些細な不備が見られる場合があるが、その数は少なく、後で見直せば訂正できるものが多い。	常に高い文法的正確さを維持する。誤りは少なく、見つけることは難しい。	（例えば、これから言うことを考えている時や、他人の反応をモニターしているような時といった）他のことに注意を払っている時でも、複雑な言葉について常に高い文法駆使力を維持している。
	音素の把握（音声能力）	非常に限られたレパートリーの、学習・練習済みの単語や言い回しなら、当人の言語を聞き慣れている母語話者であれば、多少努力すれば理解できる。	話の相手から時々、繰り返しを求められることもあり、明らかな外国語訛りが見られるものの、大体の場合、発音は理解できる程度にははっきりとしている。		時には外国語訛りが目立ったり、発音の間違えもあるが、大体よく理解できるくらいに発音は明瞭である。		はっきりとした、自然な発音やイントネーションを身につけている。		より微妙なニュアンスを表現するために、イントネーションを変化させたり、文の特定部分を正しく強調することができる。	

参考資料

レベル		A1	A2.1	A2.2	B1.1	B1.2	B2.1	B2.2	C1	C2
言語構造的能力	正書法の把握（正書法能力）	例えば、簡単な記号や指示、日常的な物の名前、店の名前や普段使う定型表現など、馴染みのある単語や言い回しを書き写すことができる。	日常的な話題に関する短い文を書き写すことができる。例えば、道順の説明など。		読者が理解できる、ある程度の長さの文章を書くことができる。		標準的なレイアウトや段落切りの慣習に従って、ある程度の長さのはっきりと理解できる文章を書くことができる。		レイアウト、段落切り、句読点の打ち方が統一されており、読者にとって読みやすい。	正書法の誤りなしに文章を書くことができる。
言語構造的能力	正書法の把握（正書法能力）	当人の住所、国籍やその他の個人的な情報を正確に書くことができる。	当人が話す語彙に含まれる短い単語の音声を、（完全に標準的な綴りではない場合もあるが）割合に正確に文字化することができる。		綴りや句読点、レイアウトなどは、ほとんどの場合読者を混乱させない程度に正確である。		母語の影響を見せることもあるが、綴りや句読点の打ち方はかなり正確である。		綴りは、時々些細な間違いがある以外は正確である。	
社会言語能力	社会言語的な適切さ	挨拶やいとまごい、紹介、"please"「～してください」、"thank you"「どうもありがとう」、"sorry"「すみません」などの、最も簡単な日常的に使われる丁寧な言葉遣いで、基本的な社交関係を確立することができる。	日常的に使われる挨拶や呼びかけなど、礼儀正しい言葉遣いで、短い社交的な会話を行うことができる。招待や提案、謝罪などを行ったり、それらに応じることができる。	例えば、簡単な形で情報を交換、請求したり、意見や態度を表明したりするなどの、基本的な言語機能を実行でき、また応じることができる。	中立的な、ごく一般的な言葉遣いで、幅広い言語機能を遂行し、対応できる。		話の速度が速く、口語的であっても、ある程度の努力をして、グループ討議についていくことができ、また参加することができる。	公式の言葉遣いでも、くだけた言葉遣いでも、その場や会話の参加者に応じた適切な言葉遣いで、はっきりと理解できる。礼儀正しい言葉遣いで、自分自身の述べたいことを自信を持って言うことができる。	幅広い慣用句的な表現や口語表現を認識することができ、言葉の使用域の変化も理解できる。しかし、特に聞き慣れない訛りの場合、時々細部を確認する必要があるかもしれない。	慣用句的表現や口語表現をうまく使いこなせ、コノテーションも分かっている。
社会言語能力	社会言語的な適切さ			最も簡単な、一般的な表現や、基本的な慣習に従って、単純な形ではあるが、効果的に交際を維持することができる。	明示的な礼儀慣習を認識しており、適切に行動できる。		母語話者との対人関係を維持できるが、その際、当人の意図に反して母語話者がおかしがったり、いらつくことはなく、また母語話者が当人と話す際、母語話者同士の場合と違った話し方をしなくてすむ。		俗語や慣用句がかなり使われている映画の筋を追うことができる。	母語話者が言語を使用する際の社会言語的、および社会文化的な意味を充分に理解し、適切に応じることができる。
社会言語能力	社会言語的な適切さ				目標言語の文化と当人自身の文化との間の、慣習、言葉遣い、態度、価値観や信条について、最も重要な違いに対する認識があり、それを配慮することができる。		言語化する際に深刻な誤りを犯すことなく、いろいろな場面で自分自身の述べたいことを表現することができる。		感情表現、間接的な示唆、冗談などを交ぜて、社交上の目的に沿って、柔軟に、効果的に言葉を使うことができる。	社会文化的、および社会言語的な違いを考慮しながら、目標言語の話者と自分自身の生活地域の言語の話者との間を、効果的に仲介することができる。

レベル		A1	A2		B1		B2		C1	C2
			A2.1	A2.2	B1.1	B1.2	B2.1	B2.2		
語用能力（ディスコース能力）	柔軟性（ディスコース能力）		既に学習済みの言い回しの組み合わせを変えて、使える表現を増やすことができる。	限られた範囲でだが、語彙的な差し替えを行って、充分練習した、覚えている言い回しを使って特定の状況に合わせることができる。	簡単な言語を幅広く柔軟に使って、述べたいことを多く表現できる。	難しい場面においてさえも、型通りの表現をあまり多用せず、表現を順応させることができる。	会話で通常見られる流れ、話し方、強調の変化に適応することができる。	その場の状況や、聞き手に応じて、内容、話し方を調節することができ、その場の状況にふさわしい丁寧さの言葉遣いができる。		強調したり、その場の状況や聞き手などに応じて変化をつけたり、あいまいさをなくすために、さまざまな言語形式を使って、発言を言い直す幅広い柔軟性がある。
							自分が述べたいことを表現する仕方に変化をつけることができる。			
	発言権（ディスコース能力）		発言権を得るために何らかの言語行動をとれる。	簡単なやり方で、短い会話を始め、続け、また終えることができる。	馴染みのある話題や、個人的興味のある話題なら、対面での簡単な会話を始め、続け、終わらせることができる。	適切な言い回しを使って、馴染みのある話題についての議論に途中からでも加わることができる。	適切な表現を使って討論に途中から入り込むことができる。		ディスコース機能の中のいつでも使える範囲から、自分の発言の前置きにふさわしい言い回しを適切に選び、発言の 機会を 獲得で きる。また話の内容を考えている間も、発言権を維持できる。	
				簡単な対面での会話を始め、続け、終えることができる。			上手に発言権をとって、談話を始め、続け、終えることができる。			
							必ずしもスマートとは言えないが、会話を始めること、適切なときに発言権を取り、必要なときに会話を終わらせることができる。			
							手持ちの言い回し（例えば「それは難しい問題ですね…」等）を使って、言うべきことを言葉にする間、時間を稼ぎ、発言権を保ち続けることができる。			
	話題の展開（ディスコース能力）		ポイントを簡単に並べ上げる形で、物事を語ったり事物を記述できる。		事柄を直線的に並べていって、比較的流暢に、簡単な語りや記述ができる。		論拠となる詳細関連事項や具体例などによって自分の主要な論点を補強して、明快な描写や語りをすることができる。		洗練された描写や語りができる。そして、下位テーマをまとめ、要点の一つを展開して、適切な結論で終わらせることができる。	

レベル		A1	A2		B1		B2		C1	C2
			A2.1	A2.2	B1.1	B1.2	B2.1	B2.2		
語用能力（ディスコース能力）	一貫性と結束性（ディスコース能力）	"and"「そして」や"then"「それから」のような、非常に基本的な並列の接続表現を用いて単語や語句をつなげることができる。	"and"「そして」、"but"「しかし」、"because"「～だから」のような簡単な接続表現を用いて語句の間に繋がりをつけることができる。	最も頻繁に出現する接続表現を使って、単純な文をつなげ、物事を語ったり、描写することができる。	短めの、単純で、バラバラな成分をいろいろ結び合わせて、直線的に並べて、繋がりをつけることができる。		限定的な範囲ではあるが、さまざまな結束手段を使って、自分の発話を、明快な、結合性のあるディスコースへ作り上げることができるが、長く話すとなると若干の「ぎこちなさ」があるかもしれない。	複数の考えの間の関係を明確にするために、さまざまな結合語を効果的に使うことができる。	さまざまな構成パターン、接続表現、結束手段が使え、上手く構成された、明快で流暢な話をすることができる。	さまざまな構成パターンや、幅広い結束手段を充分かつ適切に利用して、一貫性があり、結合性のあるテクストを作り出すことができる。
語用能力（機能的能力）	話しことばの流暢さ（機能的能力）	適切な表現を探したり、あまり馴染みのない言葉を言おうとするとき、また話の流れの修復のために、間が多くあくが、非常に短い、単独の、多くは予め準備しておいた発話を行うことができる。	言葉に詰まったり、話し始めて言い直すことが目立って多いが、馴染みのある話題であれば、あまり困難なく言いたいことを言葉に表現でき、短いやり取りを行うことができる。	話し始めて言い直したり、途中で言い換えたりすることが目立つが、短い発話であれば自分の述べたいことを理解してもらえる。	ある程度の長さの、理解可能な発話を行うことができるが、制限を受けない自由な発話で比較的長いものになると特に、談話を続けていく時に文法的および語彙的に正確であろうとして間があいたり、発話の修復を行うのが目立つ。	自分の表現したいことを、比較的容易に表現できる。言語化する際に、間があいたり、「袋小路」に入り込んだりはするものの、他人の助けを借りずに発話を続けることができる。	比較的一定の速さを保って発話を行うことができる。言い方の型や表現を探す際に詰まることがあっても、目立って長い間があくことは少ない。	無理なく自然に、コミュニケーションを行うことができ、長く、複雑な一連の発話であっても、非常に流暢で、表現に余裕があることが見られる。	自分自身の述べたいことを流暢かつ無理なく自然に、ほとんど苦労せずに述べることが可能である。ただ、概念的に難しい内容に関してのみ、自然で滑らかな言葉の流れが損なわれる。	自分の言いたいことを、長い発話でも、自然で、苦労なく、詰まらずに、流れるように、表現することができる。滞るのは、考えを表現するために最適な言葉を考えたり、適切な例や説明を探そうとする時だけである。
							互いに無理することなく、ある程度の流暢さで、無理なく自然に、母語話者と普通にやり取りができる。			
	叙述の正確さ（機能的能力）		馴染みのある事柄や型にはまった事柄であれば、限られた情報を、簡単かつ分かりやすい形で交換して、自分が述べたいことを伝えることができるが、その他の場面ではたいてい内容的に妥協しなければならない。		直接関わりのあることについては、簡単かつ分かりやすい形で情報を伝えることができ、自分が最も大切だと思う点を、聞き手に理解させることができる。	概念や問題の主要な点を、比較的正確に表現することができる。	信頼を得られる程度に情報を詳しく伝えることができる。		内容の確実性/不確実性、信頼性/疑問性、可能性などに対応した修飾語句をつけて、意見や叙述を精確に述べることができる。	例えば、程度の副詞や、限定を表す節などの修飾語句を、幅広く、比較的正しく使うことによって、意味の微妙なあやを精確に伝えることができる。
					自分が主張したい主な点を、聞き手が理解できるような形で表現することができる。					強調したり、区別したり、あいまいさを排したりすることができる。

参考資料　Council of Europe (2001) *Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment*. Cambridge: Cambridge University Press.
Council of Europe（2004）『外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠』、初版第1刷、吉島茂、大橋理枝（訳、編）朝日出版社